

露國飢饉救濟婦人有志會趣意書

一九一四年の大戦以來、ロシアの民衆は運糧機關の不備や生産力の減退のために、飢寒に憫まされておりました。ロシアの母親は、零度以下何十度といふ吾々の想像も及ばぬ極寒の中を、愛兒のために一塊のパンを得ようとして、パン屋の店先に數丁の列を作つて深夜から待ちつくすことに、幾年かの間慣らされました。そうした處へ革命が來ました。そして此革命を喜ばぬ帝政派の人々や諸外國のために、滿三ヶ年の間、ロシアは内亂と經濟的封鎖、それに作ふ窮乏のために、恐ろしい苦しみをしました。が堅忍不拔な民衆は遂にかうした一切の困難に打克つて一九二〇年以來やつと平和の裡に新しい國家を建設

する事業に専心せりか、りました。然るに一九二一年に至つて、ロシア中で一番豊沃なヴォルガ地方は大旱魃に出會ひ、遂に二千五百万の男女六百萬の子供が、恐ろしい餓死に脅かされることになりました。飢餓と疫病に死ぬ者は日に數萬を數え、或は飢渴に狂つて、餓死した親の死屍を啖ふ者があれば、見す／＼餓死する我子を見るに忍びず、母親が手づから子をヴォルガの河中に投げ込み、或は一家族が相抱いて投身したりする者さへある有様であります。

今や全世界のあらゆる文明國は、主義政見の問題を放れて、純粹に人道的の立場から、ロシア飢民の

救済に努めて居ります。殊にそうした運動の熱心な支持者が婦人であることは申すまでもありません。私共日本婦人も同じ人間としてロシアの慘狀を聞き過すに忍びず、左記賛助員諸氏の御援助を得て茲にロシア飢饉救済の運動を起し、下記規定に違つて寄附金を募集することになりしました。飢えたる子らのため、人道のために、奮つて微力な私共のために御力添へを願ひます。

大正十一年七月

露國飢饉救濟婦人有志會

發起人

與謝野晶子
中條百合子
大竹しづ子
平岩きみ子
鈴木余志

賛助員 (イロハ順)

石本 静枝氏 埴原久和代氏
新妻伊都子氏 星野愛子氏
茅野 雅子氏 賀川 春子氏
河崎 夏子氏 奥 うめお氏
萩野 綾子氏 柳 八重子氏
山内みな子氏 山田わか子氏
山川 菊榮氏 深尾須磨子氏
寺田 初代氏 三宅やす子氏

會計監督

石本 静枝氏 三宅やす子氏